

まほろんの20年とこれから

福島県文化財センター白河館
館長 菊池 徹夫

1 愛称「まほろん」の由来

- ・一般公募により選定

「まほろば」+「ロマン」 → 「まほろん」

古語「真秀（まほ）ろば」（古事記）＝素晴らしい場所

フランス語「ロマン」＝夢や冒険などへの強いあこがれをもつこと

「まほろん」＝古き時代へのあこがれを満たす良いところ

2 館の設置目的

正式名称「福島県文化財センター白河館」

- ・文化財等を保管し、又は活用することにより、福島県民の文化の振興に資する。
- ・文化財保護法の趣旨に基づき、国民的財産である文化財の保存・公開・活用を通して、文化財保護思想の普及啓発を図る。

3 業務

- (1) 考古資料等の保管及び展示
- (2) 文化財に関する講演会、講習会の開催
- (3) 文化財に親しむ体験学習の実施
- (4) 文化財情報の収集及び提供
- (5) 文化財の調査、研究を担当する市町村等職員の研修
- (6) 専門的又は技術的な調査研究
- (7) 出土品の保存処理

4 あゆみ

- (1) 2001年7月15日 開館
- (2) 2001年8月5日 開館記念イベント開催
- (3) 2011年3月11日 東日本大震災発生 一時休館
- (4) 2012年5月19日 開館10周年記念式典・記念イベントを開催
- (5) 2013年3月 敷地内に被災文化財を収蔵する仮保管施設を設置
- (6) 2019年4月 白河館の業務に保存処理機能が追加
- (7) 2021年10月16日 開館20周年記念式典を開催



5 次の20年へ —まほろんが志向したい新たなステージ—

(1) 資料の収蔵保全環境の向上

- ① 安定的温湿度環境を維持できる収蔵環境の保持
- ② 保存処理用施設・設備の向上
- ③ 植物質遺物、金属質遺物、動植物遺存体の保存処理の促進
- ④ 出土品収蔵環境の安定的確保
- ⑤ 発掘調査記録の安定的保管
- ⑥ 発掘調査デジタルアーカイブズの保存活用方針案の策定

(2) 展示方法の多角化

オンラインデジタルミュージアム機能の拡充

(3) 情報発信機能の強化

- ① 講演会やシンポジウム等のオンライン発信
- ② 「全国遺跡報告総覧」を利用した情報発信の促進

(4) 文化財保護活用体制の整備支援

- ① 市町村文化財担当職員どうしの連帯を強め、課題と解決策を共有する機会設定の継続・発展（オンラインを含む）
- ② 市町村文化財担当職員への専門的・技術的支援の継続

(5) 文化財の未来の担い手のために

- ① Webサイト「全国子ども考古学教室」等を活用した教育普及活動の展開
- ② 考古学や文化財保護への関心を高めるような子ども向け体験学習活動の促進